



New York Dance Creators はワカコ・イシダとカセイ・イノウエが中心となり、主に NY で活動してきたダンス・カンパニーである。近年、日本では 2013 年に日暮里サニーホール、2014 年にはさいたま芸術劇場で公演を行った。イノウエはダンサーでありイラストレーターでもある。2015 年 8 月にステップスで初個展を開いた。2 年半振りの今回の展覧会は NYDC となった。画廊に入って正面の長い壁面に、二人が制作したボックスアートが 66 点も轟く。写真を用いたり、オブジェを入れたり、独自の世界を形成している。ダンスの装置ではないどころか、イラストレーターとダンサーが制作したとは思えないほどの自在さが

あり、現代美術そのものである。やはり自由な発想とは技法が違えども通用するのであろう。左の壁面には NYDC の映像が投影され、事務所には写真が展示された。この三つから想起するイメージが重要だ。今回は 22(月)、25(木)、27(土)に 15 分程のパフォーマンスを開催した。22 日は東京としては珍しく雪が降った。画廊内から優雅にフォルムを形成し続けた二人は、ベランダに向かい、舞う。画廊主の吉岡が命懸けでシャッターを押す。NYDC 独自の間合いは、実は非常に和的である。間はないのに何故か「間が抜ける」という。NYDC の間は他に類がない。それを理解できたのは、展覧会という形式によるものなのであろう。

